

ついで

640号

2023/4/30

〒204-0022 清瀬市松山一丁目二
カトリック清瀬教会
TEL 042-(491)-0104

近年、「早急」という読み方が、「さつきゅう」ではなく、「そうきゅう」という読み方でも良いというニュースを見て、読みやすい言葉、受け入れやすい言葉を大多数が使うようになると、読み方が変化していくように、言葉というものには限界がなく、日々新たになっていることを感じます。

日本の教会でも、二〇二二年十一月二七日の待降節第一主日より、新しいミサ式文となり、これまで唱えていた文言が変わりました。ミサの流れ自体は変わっていないため、大きな混乱もなく、皆さん「新しい式次第」の冊子を手に持ちつつ、祈りを捧げています。

これまでも、「主の祈り」が

「天にまします…」から「天に
おられる…」に変わったたり、
「アヴェマリアの祈り」が「めで
たし聖寵…」から「恵みあふ
れる…」を経て、今の「アヴェ
マリア…」に変わったように、

ミサ新式次第について

主任司祭 野口邦大

根本的な意味は変わらないが、
その表現の方法を変化させ、
神様への祈りをより親しいも
のとして変わっています。

そんな中、今回の新しいミ
サ式次第の中で、大きな変化
は、「憐み」が「慈しみ」に変
更されたことです。慈しみと
は、「かわいらしい小さないの
ちを温かく見守り育てようと

する優しい親のような心」で、
憐みとは、「痛々しい相手を目
の前にして心が揺さぶられて、
なんとかしてあげたいという
思いが生じ、その思いがいつ
までも燃え続ける鬼火のよう
に働き続けて、手を差し伸べ
ようとの思いに突き上げられ
ていく心の動き」ⁱとなり、そ
っと包み込むよう手を差し伸

べるのか、はらわたが打ち震
えるような、まるで全身が揺
さぶられるような衝撃を受け
て相手に手を差し伸べるのか
といった大きな意味合いの違
いがあります。そのため、神様
から私たちに与えられる愛は、
まさに「憐み」であり、私たち
が神様に求める愛は「慈しみ」
となるのです。

私たち人間が神様からの激
しい愛を求めて「憐み」を請う
のではなく、先に神様からの
「憐み」があつて、恵みがあつ
て、愛があつて、私たちが、救
われていくのです。「放蕩息子」
のたとえ話のように、親は子
がどんな状況になろうとも、
決してわが子を見捨てないよ
うに、神様の本質である「憐み」
を理解していくことが、真の
愛へと高められていくのです。

私たちに現在、与えられて
いる「言葉」を深く黙想し、主
に近づいていくことができる
ように、祈り続けていきまし
よう。特に、ミサにおける新し
い祈りは、祈り続けることで、
馴染んでいくのでしょうか。言
葉が進化し続けるように、私
たちも成長していくことがで
きるようお願い、信仰生活を過
ごしていきましょう。

i:「教皇フランシスコ」p.18 参照

著者:森一弘

ii:「同上」p.19 参照

菊地大司教様訪問ミサ

二〇二三年二月一九日（日）、
一〇時から、菊地大司教様を
お迎えして大司教様訪問ミサ
が行われました。

当日の午後に堅信式が行わ
れることから、午前中に一般
信徒を対象とした訪問ミサと
なりました。

菊地大司教様は二〇一八年
以来、二度目の清瀬教会訪問
となります。



堅 信 式

二〇二三年二月一九日（日）
一四時から、菊地大司教様を
お迎えして堅信式が行われま
した。

九名の方が堅信を受けられ
ました。おめでとうございます。
す。

当日は、受堅者の多くが以
前、教会学校でお世話になっ
た、コンベンツアル聖フラン
シスコ修道会の外山 祈（と
やまあきら）助祭（三月二十一
日に司祭叙階）も駆けつけて
くれました。





堅信を受けられた方は次のとおりです。(順不同)

グレゴリオ
中 鉢 瑞 紀 さん

クリステイナ
江 口 麻 鈴 さん

アシジ・フランシスコ
江 口 柚 斗 さん

マキシミリアン
大 竹 爾 喜 さん

ダニエル
大 竹 風 さん

ラファエラ
宮 田 真 花 さん

小テレジア
吉 野 好 香 さん

ニハイヨシフミ
二 瓶 善 文 さん

クイントフランセス・ハナ・デキナ

QUINTOFANCES・HANA・
DEQUINA さん

堅信式を終えて

アシジ・フランシスコ

えぐち ゆうと
江口 柚斗

こんにちは。江口柚斗です。一月の成人式に続き、二月九日に、教会学校で一緒だった仲間と共に堅信の秘跡を受けることができました。式では私が小中学生の頃に神学生だった外山さんが、助祭として来てくださっていました。たくさんのお恵みでした。

私は三月二日からドイツのライプツィヒに留学しています。ドイツは、人口の七〇%がキリスト教の国です。堅信式と成人式を終えた身として、ドイツでの新たな出会いと小さな発見を大切に日々臨んでいるところです。今後ともよろしく願います。

クリステイナ

えぐち まりん
江口 麻鈴

この度堅信式を受けられたこと、とても嬉しく思います。私は唯一社会人での参加でした。

一年目でしたので、日々の仕事をしながら、勉強会に参加することは大変な時もありました。

今無事に堅信式を、終えることができてホッとしています。

学生の時には、教会学校のTシャツのデザインやバザーのポスターなど描かせていただいていたので、今後も自分ができることを活かして教会の力になれたらと思います。

これからもどうぞよろしく願います。

ラファエラ

みや たまなか
宮田 真花

今回、堅信を受けて私は信徒としての自覚が芽生えたというものがどのようなものであつて、どのように過ごしていくべきなのかということについて、また清瀬教会という共同体の中でどのように生きていくかということを理解できました。

今回のことで信徒がいかに一緒になつて生きているか、またいかに神様に守られているかということについてもわかり自分が苦しいときに頼ること、休むことができる存在や場所があるということを理解して安心できるようになりました。

これからは私もその共同体の一員として存在していきたく感じました。

グレゴリオ

ちゅうばち みずき
中鉢 瑞紀

堅信を受けた身として、私はこれからより神の言葉に耳を傾け、その言葉に隠された神が我々に望んでいる事を実行できるよう励みたいと思います。

神は多くの事を通して私達に語りかけてきます。聖書や人など方法は様々です。そしてその言葉の本質を捉え、精霊と共にその言葉を行動に変え、キリスト信者に相応しい者として社会で活動し生きて行きたいと考えています。

又これらの活動を通して、新たな発見があれば幸いです。

マキシミリアン

おお
たけ
に
き
大 竹 爾 喜

清瀬教会で侍者をする子供の数は年々減っていると思います。特にコロナ渦における公開ミサの中止が終了した二〇二一〜二〇二二年春頃まではずっと弟と二人で侍者をしてきた記憶があります。その少なさ故に侍者をするのに対して「義務感」を感じてしまい、信仰とは何かと悩み、カトリック信者であることを苦に感じていた時期がありました。

しかし、堅信式はカトリック教会における成人式です。成人してリーダーになり、一層教会に貢献することを神様がお望みになられているのだと感じます。さらに以前とは違い、自分の周りには進んで侍者をしてくれるたくさんの方の後輩がいます。自分たちが小

学校低学年以前に感じていた、「行きたいと思うような教会」を目指して、理想の信仰、理想の教会をみなさんと作っていきたいと思います。

ダニエル

おお
たけ
かぜ
大 竹 風

無事に堅信式を終えることができて嬉しく思います。堅信を受けるにあたって、堅信の準備講座を半年弱かけて受講しました。講座では今までの信仰生活で何となく感じていたことが言語化され、神様をより近くに感じられるようになったと思っています。とはいえ、未だに分らないことが増えるばかりです。自分にとっての信仰は何なのか、聖書の言葉を通して神様は何を望まれているのか、これからも考え続けていきたいです。

これからお世話になることが多くあるかと思いますが、どうぞよろしく願います。



【菊地 功 東京大司教区大司教様説教】

2023年2月19日 清瀬教会堅信式 年間第7主日

堅信を今日受けられる方々、堅信の秘跡の意味は、準備の間に勉強されたことと思います。それは、聖霊の照らし、聖霊の恵みを受けることによって、成熟した信仰者としての道を歩みはじめる、信仰生活における成人式のようなものだと思います。

使徒言行録に書いてある初代教会のとき、五旬祭の日に聖霊が弟子たちと聖母マリアに降り、そこで弟子たちが、いろんな国の言葉でイエスキリストの福音を語り始めました。あれが最初の聖霊降臨の出来事で、そこから教会は福音を宣教する道を歩みはじめています。

ですから、堅信の秘跡によって聖霊を受けることの一番大きな目的は、その日から聖霊の照らしを受けて、弟子たちがそうであったように、福音を多くの人たちに告げ知らせしていくということです。

その五旬祭のあの日、聖霊降臨が起こったときの出来事をよくみてみましょう。聖霊降臨が起こるまで、弟子たちは恐れていました。先生であるイエスが殺されてしまい、自分たちは暗闇に放り出されたようになってしまった。どうしたらいいかわからない。そんな思いを抱えて集まり、隠れていたんですね。

その隠れていた弱々しい弟子たちが、聖霊を受けることによって大きく変えられたのです。

その日からいろんな国の言葉で、…もちろんいろんな言葉で話せるようになったら嬉しいですが…、それよりももっと大事なことは、すべての人にわかる言葉で福音を述べ伝えはじめたということです。つまり、隠れていた弱々しい人が、聖霊を受けることによって福音を述べ伝える者となった。それが成熟した信仰者として生きていく、信仰の成人式です。

昔は、堅信の秘跡はキリストの兵士になることと言いました。堅信を受けることによって、キリストのために世の中で戦ってゆく兵士になるんだと。当たらずとも遠からずだと思います。わたしたちの目的は、兵士となって力で戦うのではなくて、福音を述べ伝える戦いの兵士になっていくということです。わたしたちは、堅信を受けることによってキリストの兵士になっていくのです。

ですから、今日、堅信を受けられるお一人おひとりは、やはり同じように、神様のために福音を述べ伝える者となっていかなければならないわけですね。

ところが、ここからがものすごく大きな問題なのです。いままで何千人、何万人という人が堅信を受けてきました。私自身、司教になってから何人の人に堅信を授けてきたかも覚えていません。それくらい沢山の人が堅信を受け、成熟した信徒として、キリストの兵士として歩みはじめているはずなのですが、あまり成果が上がっていないんですよ。

これだけ沢山の人が堅信を受けたんですから、日本中そこら中に、キリストの福音を耳にしてキリストの福音に従おうと決意する人たちが、沢山現れてきてもおかしくないですよ。ところがいまだに日本でカトリック信者は、本当にほんの少しですよ。人口の1%以下。40万人いればいい方だと思いますけれども、その状態から変わらないわけです。一体何が足りないんだろう。せっかく堅信を受けたのに何が足りないんでしょう。

一番大きいのは、自覚が足りないんです。洗礼を受けて堅信を受けることによって、自分がキリストの福音を述べ伝える者となったんだという自覚が、足りないのだと思います。

もう一つは、聖霊に対する信頼です。聖霊に対する信頼が足りないのだろうと、わたしは思っています。

教会は、あの第二バチカン公会議もそうですけれども、最初にできたときから常に、聖霊によって導かれています。

様々なことが教会の歴史の中では起こってきましたが、いままで連綿として信仰が伝わってきた一番大きな理由、それは、わたしたちが聖霊によって導かれているからです。ですから、わたしたちがその聖霊の働きを、どこまで信じて、どこまで信頼しているのかが大切なのです。

聖霊を受けたからといって、聖霊が、その日からわたしたちをスーパーマンに変えてくれるわけではない。急に変身して、勇気あるすごい人になることは不会です。

聖霊は本当に神様の息吹なのです。後ろからフーッと吹いてくる息でしかないですよ。そして、それが力を発揮するのは、わたしたちがその息吹の方向に従って前に向かって進もうとするときです。そのとき、後ろから来る風が力を発揮するんです。わたしが斜め横に向かって進むとき、真っ直ぐ吹いている風はあまり効きません。横を向いて全然違う方向に行こうとすれば、風は全く力を発揮することができないんです。

聖霊の恵みは、確かにお恵みとして、わたしたち一人ひとりに与えられます。7つの賜物があると聞きましたよね、堅信の勉強をしたときに。

つまり、聖霊の7つの賜物は、後ろから真っ直ぐ、フーッと神様の息として吹きかけられている。それが本当に効果を発揮するためには、わたしたちが真っ直ぐその息吹と同じ方向に向かって、歩いて行くことが必要なのです。

聖霊の息吹がフーッと吹いている、その方向と同じ方向に向かってわたしたちが歩いているというのは、とても大切な条件なのですよ。

「風がどこから吹いてくるのか、人は誰も知らない」という典礼聖歌の歌がありますけれども、まさしく神の息吹ですから、目に見えないですよ。風が一体どこからどこへ向かって吹いているのか、パッと見ただけじゃわからないわけですよ。

同じように聖霊も、一体どこからどこに向かって吹いているんだろうということがわからなければ、わたしたちはその風と同じ方向に向かって進んでいくことはできないわけですよ。ですから、わたしたちにとって大切なのは、風はどこからどこに向かって吹いているのかということ、知ろうとすることです。

では、それはどうやって知ることができるのでしょうか。
教会に来ていれば、シノドスという言葉を目にしたことがあるかもしれない。もしもまだならば、今日から是非、シノドスというのは何だろうと考え、学んで頂ければと思います。東京教区や教区ニュースでも、YouTube のチャンネルで短いビデオをいろいろ作っていますので、是非ともご覧ください。

シノドスというのは、共に歩む、という意味です。教会はシノドスの教会なんだと、教会のあり方はシノドスなんだということを教皇様がおっしゃって、それでいま「教会が、共に歩む教会になりましょう」ということを呼びかけています。

なぜならば、そうすることではじめてわたしたちは、聖霊がどちらに向かって吹いているのかを知ることができるからです。自分一人ではわからないけれども、みんなと一緒にあって、集まって、互いが感じていること、互いが思っていることを話し合い、分かち合って、相手の言うことによく耳を傾け、自分の語りたいことを語り、そして、一緒に祈って、一緒に助け合って、道を進んで行くときにはじめて、どちらの方向に神様は息を吹いているのかがわかるんです。その方向を見誤っていると、聖霊は働かないのですよ。ですから、みんなと一緒にあって正しい方向を見極めてゆくことは、とても大切なことです。

その見極めの取り組みの一つが、さっきもお話した、1965 年まで開かれていた第二バチカン公会議です。

その公会議には、当時のすべての司教さんたちが世界中からバチカンに集まり、一緒になって何年間も会議をしたのです。

その中で、一緒に祈り、一緒に分かち合い、耳を傾け合い、そして互いに手を取り合って、助け合って進んでいきましょう、という作業を重ねていきました。それによって、一体いまの教会に対して、神様はどちらの方向へ風を吹いておられるのかを、見極めようとしたんです。それを、教会がよく使う言葉で「識別する」と言います。

神の意志を識別する。識別という言葉をよく使いますが、それは聖霊がどちらに向かって吹いているのか知ろうとする作業のことです。

ですから第二バチカン公会議はまさしく、その識別の作業でしたし、いまもなお、それが続けられているはず、なんですよ。ところがわたしたちは、そうしたことを時間が経つにつれて忘れてしまうわけです。

そこで教皇様はあらためて、シノドス的な教会、つまり、みんなと一緒にあって支え合い、みんなと一緒に祈り合い、みんなと一緒に道を見つけてゆく、識別をする教会であることが当たり前教会の姿にしましょうと呼びかけられた。聖霊がどちらに吹いているのかを、常に知ることができる教会にと。そして、そちらに向かって歩いていけば、おのずと聖霊の力が教会に働いてくれるわけです。

ですから、みんなと一緒にあって識別をするというのは、とても大切なことだと思います。

こうして、何人もの人たちが一緒に堅信を受けますね。
今日堅信を受ける皆さんも、自分一人だけが今日から成熟した信徒となるということではなくて、一緒になって、神様の息吹が吹いている方向を見極めてゆく、助け合ってゆく仲間ができたんだということを、是非とも忘れないでいて頂きたいと思います。そしてそれは、今日堅信を受ける方たちだけでなく、この教会共同体と言われているこの教会に集まって来るすべての人にとっても同じです。

一緒になって、神様の息吹の吹いている方向性を見極め、そちらに向かって足を踏み出すことで、教会は常に、聖霊によって満たされ、聖霊に導かれ、聖霊に後押しされる豊かな教会になってゆくと思います。

聖霊の力を受けて、皆さんお一人おひとりが、今日から成熟した信仰者、キリストの兵士として、聖霊に信頼しながら、福音を述べ伝えてゆく者となることを、心から期待してお祈りしています。



初聖体式のお知らせ

6月11日（日）10時のミサの中で初聖体式を行う予定です。

対象者は新小学2年生以上で、現在勉強中です。お祈りください。



御復活おめでとう ございます



洗礼式

四月九日(日)復活の主日、
一〇時のミサの中で、八名の
方が洗礼をお受けになりました。
おめでとうございます。
これからは清瀬教会の一員
としてご活躍されることを期
待しています。

《受洗者紹介》(順不同)

アンナ

山越 良子

(やまこしりょうこ) さん

ガブリエル

山越 咲輝

(やまこししょうき) さん

ラファエル

山越 咲良

(やまこしさくら) さん

ミカエル

山越 咲澄

(やまこしさきと) さん

(以上六地区)



パウロ

江端 浩三

(えばたこうぞう) さん

(九地区)

ルイズ・ド・マリアック

渡辺 咲希

(わたなべさき) さん

(三地区)

フランチェスカ

鈴木 歩

(すずきあゆみ) さん

マチルダ

鈴木 アンジェラ

(すずきアンジェラ) さん

(以上九地区)

信徒動向

《結婚》

リトヴィナ

山崎

淑(しゆく)

石黒 淳 一さんと

(関口教会にて)

マリア

戸田 恵美子さん

(二〇二二年二月)

マリア・マグダレナ

鈴木 静 子さん

(二〇二二年二月)

マリア・アンナ

渡邊 雅 子さん

(二〇二二年二月)

ヴェロニカ

篠崎 悦 子さん

(二〇二二年五月)

テレジア

三森 郁 子さん

(二〇二二年七月)

マリア・アヌンチアタ

保坂 絹 江さん

(二〇二二年八月)

マリア・クララ

山脇 百合子さん

(二〇二二年九月)

マリア・セシリア

相曾 明 子さん

(二〇二二年一〇月)

使徒ヨハネ

相曾 益雄さん

(二〇二二年十一月)

スコラスティカ

清嶋 玲 子さん

(二〇二二年十一月)

ヨゼフ

川里 邦夫さん

(二〇二二年十一月)

マルチーズ

出来 寛章さん

(二〇二二年十二月)

ルチア

箱崎 栄 子さん

(二〇二三年一月)

ペトロ

喜多村 良夫さん

(二〇二三年二月)

フランシスコ・アシジ

村野 建彦さん

(二〇二三年三月)

清瀬教会内での住所移転は
省略しています。

※第六三八号(二〇二二年十二月二四日)掲載以降の異動
※「お知らせ」で報告したものを含みます。

《転入》

柴田 英知(えいじ)さん

真理(まり)さん

知祈(はるき)さん

実祈(みのり)さん

(八地区へ)

岩崎 幸雄(ゆきお)さん

知子(ともこ)さん

信一郎(しんいちろう)さん

(一地区へ)

(二地区へ)

パウロ

中島 久さん

(二〇二二年一月)

フランチェスコ・アシジ

飯野 宏さん

(二〇二二年二月)

(築地教会へ)

古屋 陸宏(りくお)さん

《転出》